

地域に開かれた「長島ダム」の春の風物詩

色鮮やかピンクの絨毯 長島ダム斜面に春ふたたび

平成14年から、ダム斜面を彩るシバザクラの植栽に取り組み始めた長島ダム。18年の春には見事なピンク色のじゅうたんが姿を現しました。そして今、鹿の食害という危機を乗り越え、再び華やかな春が訪れた長島ダムをリポート。



問い合わせ
●長島ダム管理所
☎ (59) 1021
●総合支所観光商工課
☎ (58) 7077

地域に開かれたダム「長島ダム」では、ダムサイト右岸斜面に、平成14年度からシバザクラの植栽を始めた。試行錯誤を重ねたこの植栽活動は4年がかりで結実し、平成18年5月、同斜面一帯に美しいピンク色のじゅうたんが姿を現した。

新聞紙上でも大きく取り上げられたこのシバザクラ。ピンク色の美しいじゅうたんを一目見ようと、町内外から多くの来場者が訪れた。関係者は、長島ダムの春の風物詩になるだろうと期待を込めた。

しかしその年の冬。鹿の食害に遭ってしまった。新芽や花芽を根こそぎ食べられ、土壌も荒らされてしまった結果、次の春、シバザクラは花を咲かせることはなかった。誰もが落胆の色を隠せなかった。

ピンクのじゅうたんを復活させよう。そんな思いで立ち上がった大井川長島ダム流域連携協議会と長島ダム水源地域ビジョン推進会議、流域の住民や花の会の会員、地元住民らの手によってふたたびシバザクラの植栽が始まった。一昨年3月に約930平方メートル、昨年3月には約2,800平方メートル、今年3月には約1,600平方

メートルの斜面に全部で9000株ものシバザクラが植えられた。これは同斜面全体のおよそ30割に当たる面積だ。これら植栽した箇所には鹿除け用ネットを設置。食害防止に効果を発揮している。

今年4月、ピンク色のじゅうたんがふたたび姿を現した。シバザクラを管理する国土交通省中部地方整備局長島ダム管理所では「多くの皆様のご協力によって、ダムサイトの斜面にシバザクラが戻り、本当にうれしく思っています」と話していた。

例年、シバザクラの開花は4月下旬と言われているが、今年開花が早く、4月上旬には大部分が咲きそろっていた。もしかすると、シバザクラが喜びの声を上げている…のかも。しれない。

